

2026年3月30日
経済産業省北海道経済産業局

企業向けインターンシップ実践ガイドブックを作成しました

～インターンシップの窓口・登録方法、導入事例などを一冊にまとめた“いますぐ使える”ガイド～



経済産業省北海道経済産業局は、北海道デジタル人材育成推進協議会の取組の一環として、道内企業と学生の接点創出支援を目的に、標記ガイドブックを作成しました。

本冊子は、道内の企業と大学・高専が連携しやすくなるよう、学校側のインターンシップの窓口、登録方法など、従来分散していた情報を整理・集約したほか、インターンシップ導入事例など企業に参考となる情報を掲載しています。

本冊子が、企業のインターンシップ導入・拡充の一助になれば幸いです。

本冊子作成の背景

インターンシップは学生のキャリア形成において重要性が高まっており、企業にとっても学生との接点づくりに欠かせない取組となっています。

こうした中、大学・高専ごとに異なる登録方法や窓口情報は、企業がインターンシップ活用を進める上で課題となっています。

このため、道内企業のインターンシップ活用を支援するべく、参画大学・高専の関連情報を整理した「企業向けインターンシップ実践ガイドブック」を作成しました。

掲載内容

1. 企業におけるインターンシップの実施意義
2. インターンシップの導入・実践
3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

※本項目に掲載している情報は、北海道デジタル人材育成推進協議会に参画している大学・高専の情報です。

取得方法

以下の当局ウェブサイトからダウンロードしてご覧ください。

企業向けインターンシップ実践ガイドブックを作成しました

～ インターンシップの窓口・登録方法、導入事例などを一冊にまとめた“いますぐ使える”ガイド ～

<https://www.hkd.meti.go.jp/hokcm/20260330/index.htm>



(本資料の問合せ先)

経済産業省北海道経済産業局

地域経済部 製造・情報産業課

課長 竹野 (担当: 矢野・小出・鈴木)

電話: 011-709-2311 (内線 2566、2571)

E-mail: bzl-hokkaido-seizojoho@meti.go.jp

参考情報

●北海道デジタル人材育成推進協議会

北海道におけるデジタル人材の育成等に向けて、経済産業省北海道経済産業局は、2023年3月に産業界、教育機関、行政機関等で構成する「北海道デジタル人材育成推進協議会」を設置（30機関）。

本協議会は道内企業への就職促進事業を、パッケージで実施するとともに、大学・高専への実務家教員の派遣などカリキュラムの強化にも取り組んでいます。

●協議会参画機関一覧

教育機関	1	国立大学法人北海道大学	教育機関	17	北海道医療大学
	2	国立大学法人室蘭工業大学		18	函館工業高等専門学校
	3	国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学		19	苫小牧工業高等専門学校
	4	国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学		20	釧路工業高等専門学校
	5	国立大学法人旭川医科大学		21	旭川工業高等専門学校
	6	国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学		22	北海道経済連合会
	7	公立はこだて未来大学	産業界	23	一般社団法人北海道商工会議所連合会
	8	公立千歳科学技術大学		24	一般社団法人北海道IT推進協会
	9	札幌市立大学		25	一般社団法人北海道機械工業会
	10	旭川市立大学		26	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
	11	札幌大学	行政機関	27	北海道
	12	札幌学院大学		28	札幌市
	13	北海学園大学		29	文部科学省（高等教育局 専門教育課）
	14	北海道科学大学		30	経済産業省（商務情報政策局 情報技術利用促進課）
	15	北海道情報大学	事務局	経済産業省北海道経済産業局 （地域経済部 製造・情報産業課）	
	16	北星学園大学			

●協議会の詳細

以下の URL または二次元コードからご確認ください。

北海道デジタル人材育成推進協議会（北海道経済産業局のウェブサイト）
https://www.hkd.meti.go.jp/hokcm/digital_suishin/index.htm



企業向け インターンシップ実践ガイドブック

～インターンシップの窓口・登録情報、導入事例などを一冊にまとめた“いまずぐ使える”ガイド～



令和8年3月
北海道デジタル人材育成推進協議会

はじめに

インターンシップは、学生の就職活動において重要な位置づけを占めるようになり、学生の約8割が何らかのプログラムへの参加経験を有しています。

企業にとっても、優秀な人材との早期接点づくりや自社理解の促進につながる有効な取組として活用が広がっています。特に地域企業にとっては、自社の魅力や仕事のやりがいを直接伝えられる貴重な機会であり、将来的な採用につながる重要な施策の一つです。一方で、「どのように大学や高専と連携すればよいかわからない」、「登録方法や手続きが学校ごとに異なる」といった課題もあり、導入時の課題となっています。

本ガイドブックでは、道内企業におけるインターンシップの活用事例や、実施に向けた進め方やポイントを整理するとともに、道内の大学・高専の窓口情報や登録方法を一覧化し、企業の皆さまが円滑に連携できるような情報をまとめました。

本ガイドブックが道内企業の皆さまにとってインターンシップ導入・拡充の一助となり、将来を担う人材との出会いと持続的な採用活動の推進に活用いただければ幸いです。

北海道デジタル人材育成推進協議会
(事務局：経済産業省北海道経済産業局)

目次

- 1. 企業におけるインターンシップの実施意義 3
 - キャリア形成支援の分類
 - キャリア形成支援の実施意義
 - 企業におけるキャリア形成支援の実施状況
 - 学生におけるキャリア形成支援の参加状況
 - 道内企業事例
 - 東興アイテック株式会社
 - トヨタ自動車北海道株式会社
- 2. インターンシップの導入・実践 13
 - インターンシップの導入プロセスとポイント
 - プログラム設計
 - コンテンツの種類と特徴
 - 学生がインターンシップ参加企業を探す際に重視したこと
 - 募集・選考
 - インターンシップの募集方法
- 3. 道内大学・高専における
インターンシップ関連窓口・登録方法 17

キャリア形成支援の分類

●キャリア形成支援とは、学生が主体的に自分のキャリアを描けるように、企業が学びの機会や経験を提供することで、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の3省合意(令和4年6月)に基づき、現在4類型に整理されています。

[表 学生のキャリア形成に関する取組の類型と特徴(出典)]

類型	目的	就業体験	参加期間	実施時期	こんな企業におすすめ!
タイプ1: オープン・カンパニー	個社や業界に関する情報提供・PR	✗ なし	超短期(半日)	学士・修士・博士課程の全期間(年次不問)	➔ 企業や大学が主催するイベント、説明会を活用したい
タイプ2: キャリア教育	働くことへの理解を深めるための教育	▲ 任意	授業・プログラムによって異なる	学士・修士・博士課程の全期間(年次不問)	➔ 大学主導の授業・産学協働プログラムを活用したい ➔ CSRとして実施したい
タイプ3: 汎用的能力・専門活用型 インターンシップ	就業体験を通じて、学生にとっては自らの能力の見極め、企業にとっては学生の評価材料の取得	○ 必須(参加時間の半分以上を超過する日数を職場での就業体験に充てる)	汎用的能力活用型 ➔ 短期(5日間以上) 専門活用型 ➔ 長期(2週間以上)	学部3・4年または修士1・2年の長期休暇期間	➔ 自社単独または大学などと連携して実施したい
タイプ4: 高度専門型 インターンシップ	就業体験を通じて、学生にとっては実践力の向上、企業にとっては学生の評価材料の取得	○ 必須	長期(2か月以上)	—	➔ 修士・博士課程の学生を対象に、専門性を重視したプログラムを実施したい



[POINT] 目的や内容に応じて、複数の類型を組み合わせよう!!

タイプ ① オープン・カンパニー ➔ (例) 母集団形成を目的として「通年で実施」

タイプ ③ インターンシップ ➔ (例) 業務適性の評価を目的として、少数の学生を対象に「長期休暇に実施」



キャリア形成支援の実施意義

●企業がキャリア形成支援に取り組む目的はさまざまですが、大きく3つに分けられます。

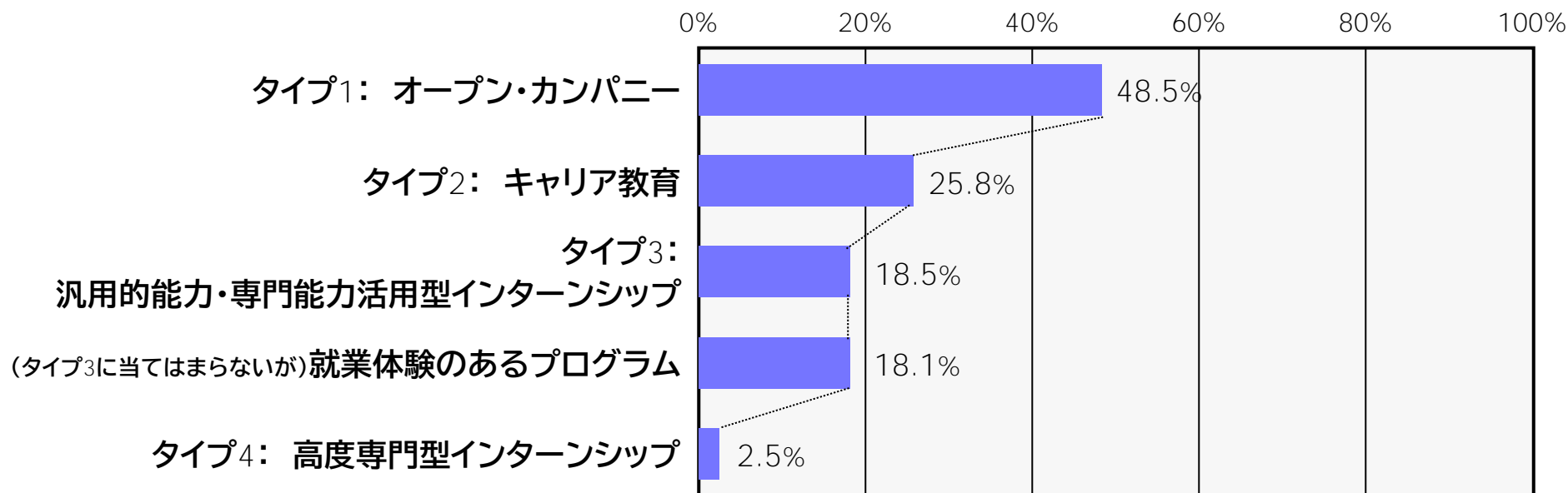
[表 学生のキャリア形成に関する取組の類型と特徴]

類型	目的	主な対象	特徴	主な活用類型	こんな企業におすすめ!
認知拡大型	母集団形成に向けた自社の認知拡大	高専 → 本科第4学年及び専攻科1年 大学・大学院 → 大学1～3年生及び修士・博士課程	○ 業界理解の促進 ○ 自社の存在を知ってもらう	→ タイプ1:オープン・カンパニー → タイプ2(キャリア教育)	→ 学生と広く接点を持ちたい企業
マッチング型	採用を前提とした業界・企業適性の確認、相互理解	高専 → 本科第4学年及び専攻科1年 大学・大学院 → 大学3年生及び修士・博士課程	○ 学生の評価 ○ 採用ミスマッチの防止	→ タイプ3(汎用的能力・専門活用型インターンシップ)	→ 採用を見据えて少人数の学生と深く関わりたい企業
組織強化型	社内の受け入れ・教育体制の強化	学年不問	○ 受け入れ時の業務の見える化 ○ 社内の意識改革 ○ 若手従業員の育成	→ タイプ2(キャリア教育) → タイプ3・4(汎用的能力・専門活用型/高度専門型インターンシップ)	→ 学生の受け入れ経験が少なく、まずは人事体制を強化したい企業

企業におけるキャリア形成支援の実施状況

- 就職活動が早期化する中、学校や学生と早期に接点をつくり、優秀な学生を採用するためにキャリア形成支援に取り組む企業が増えてきています。
- 2028年卒向けキャリア形成支援の実施予定では、4つの類型の中で「タイプ1:オープン・カンパニー」が約5割と最も多く、その他の3類型も約2割の企業が実施予定となります。

【2028年卒向けキャリア形成支援活動において「実施予定」と回答した企業の割合(出典)】

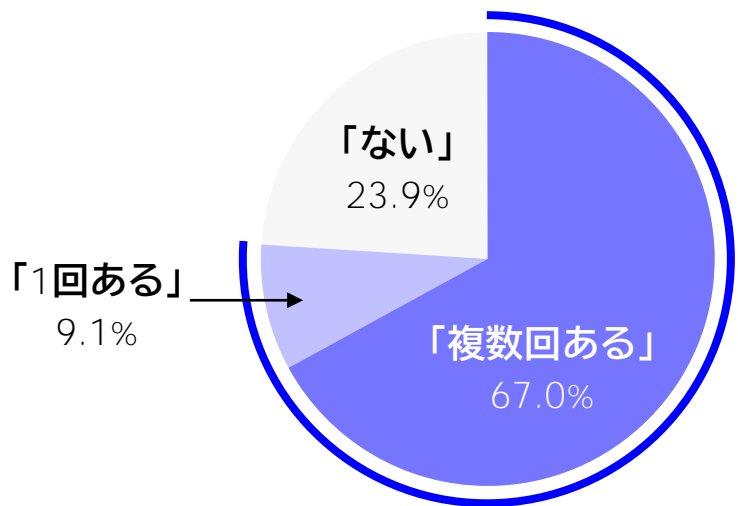


出典 株式会社マイナビ「マイナビ2027年卒 インターンシップ・キャリア形成支援活動に関する企業調査(令和7年12月)」を基に、北海道デジタル人材育成推進協議会作成

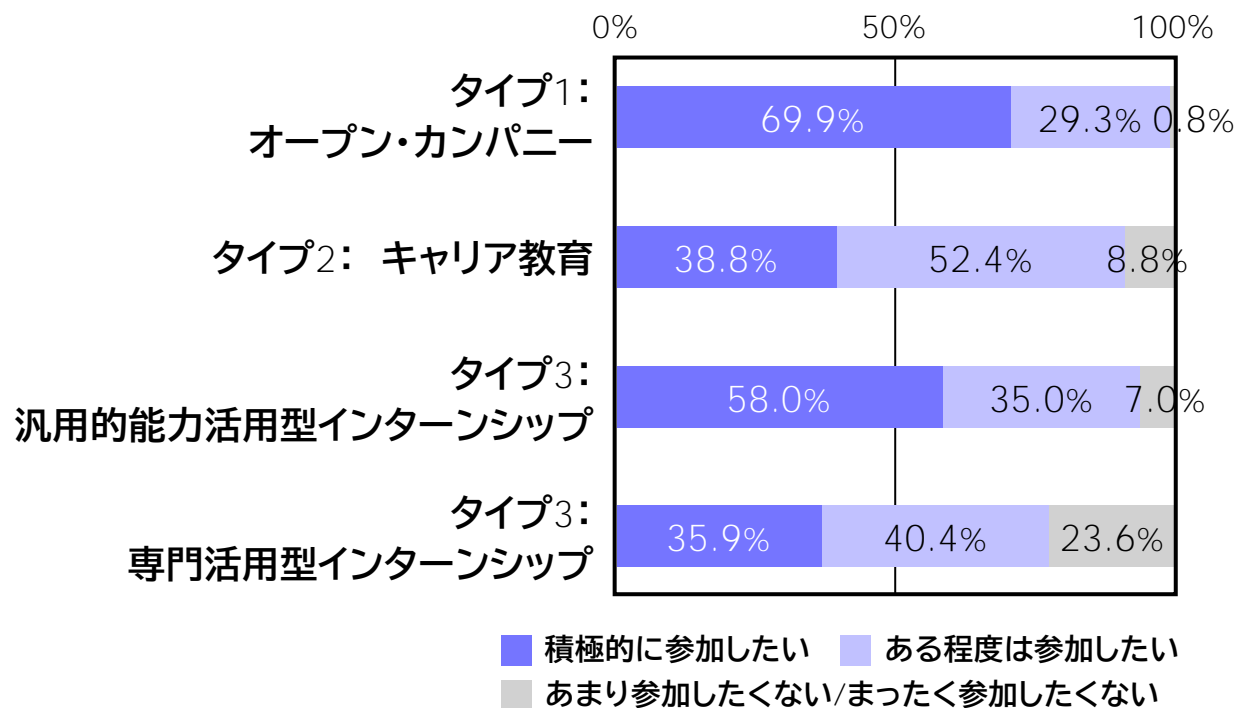
学生におけるキャリア形成支援の参加状況

- 就職する学生の約8割が何らかのキャリア経営支援に参加経験を有しています。
- 4つの類型の中では、「タイプ1:オープン・カンパニー」の参加意向が最も高く、学生の約7割が「積極的に参加したい」としています。タイプ2・3も3割以上が「積極的に参加したい」としています。

【2025年卒における
何らかのキャリア形成支援
への参加経験(出典1)】



【2027年卒におけるキャリア経営支援への参加意向(出典2)】



出典1 内閣府「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査結果(令和6年12月)」を基に、北海道デジタル人材育成推進協議会作成

出典2 株式会社キャリアタス「キャリア意識やインターンシップ等に関する調査(令和7年6月)」を基に、北海道デジタル人材育成推進協議会作成

道内企業事例 ① 学生の受け入れを通じて、社内の採用体制を強化

- 防水工事を中心に改修工事を手掛ける東興アイテック株式会社(本社:函館市)では、課題としていた建設資材の在庫管理などのアナログ業務をデジタル化し、省力化・効率化を目指すプログラムを設計しました。
- 修士2年生の大学院生1名を対象に、約2か月間の中期インターンシップに取り組みました(注)。

インターンシップを実施した背景

—はじめに、担当業務とインターンシップを検討した背景を教えてください

橋本 企画部に所属し、採用業務を担当しています。新卒・既卒を問わず募集をかけていますが、応募者の9割以上は既卒でした。今後の会社のことを考えると、学生との接点をどうつくるかは避けて通れない課題と感じていました。

—「学生との接点づくり」では、どのような問題認識を持っていたのでしょうか

橋本 新卒採用の機会が少ない分、最近の学生が企業を見るとときに何を重視しているか、どういう価値観を持っているかがわからないままになってしまいます。採用戦略を見直したいと思っても、その前提になる学生理解が十分でないと感じていました。そのため、函館市内の大学生や高専生とのマッチングイベントなどに足を運び、学生がどんなことに関心を持っているのか、どのような会社の魅せ方が必要なのか探っていた時期でした。

—接点を増やしたいという思いがあった一方でインターンシップに踏み出せていなかった理由は何だったのでしょうか

橋本 やはり一番大きかったのは、社内の体制です。採用担当は私1人ですし、採用専任ではなく広報などの業務も兼務しています。以前からインターンシップ自体に関心はありましたが、導入しようとすると、企画から学生募集、プログラム設計、社内調整、当日の対応、その後の振り返りまで多くの工程があります。私1人で回しきるのは、正直かなり難しいと感じていました。

特に当社のような建設業では、現場との調整も必要になりますし、どういうテーマなら学生にとって学びになり、かつ会社にとっても意味があるのか整理するところから始めなければいけません。「やってみたい気持ちはあっても、どこから手を付ければいいのかわからない」というのが実態です。

—その中でインターンシップ実施に繋がったきっかけは何だったのでしょうか

橋本 北海道経済産業局の支援事業を知ったことでした。経験豊富なコーディネーターが入って伴走してくれるという内容で、「これなら私1人でも何とかできるかもしれない」と感じました。テーマ設定や進め方を一緒に考えられる、学生とのマッチングも支援してもらえるとという安心感がありました。

また、社内でも「デジタル化を進めたい、でも通常業務の中ではなかなか進まない」というもどかしさがありましたので、「学生さんの力を借りながら社内課題の改善にも繋げられるのではないか」と考え、挑戦してみようと思いました。

インターンシップ実施内容

準備期間 約6か月間(企画～募集期間まで含む)

受け入れ期間 約2か月間

募集方法 北海道経済産業局による公募

活動内容 資材在庫管理のデジタル化施策の
検討・提案

社内担当者 2名(採用担当1名、システム担当1名)

1. 企業におけるインターンシップの実施意義

実施したプログラム

—どのようなテーマを設定したのでしょうか

橋本 テーマは、建設資材の在庫管理をはじめとしたアナログ業務のデジタル化です。募集要項でも、「社員と一緒に、建設資材の在庫管理などの業務の省力化・効率化を進めるアイデアソン型のプログラム」と打ち出しました[下表]。

—建設業というと、現場見学や仕事体験をイメージする人も多いと思います。今回はかなり実践的なテーマだったのですね

橋本 業界や会社を知ってもらう目的もありましたが、それ以上に当社が抱える実際の事業課題に向き合ってもらって実践型の内容にしたいという思いが強くありました。

—受け入れた学生さんはどのような方でしたか

橋本 大学院の修士2年生でした。内定先が決まっています。就職活動そのものよりも就職先で役立つ経験・スキルを実践の中で試したいと考えていました。学生さんの意向と、当社のDX面の課題認識がうまく合致したと思います。

—初めて本格的に受け入れるうえで、不安や難しさはありませんでしたか

橋本 かなりありました。以前に一度だけ函館市内の学生を受け入れたことがあったのですが、本当に手探りで、カリキュラムもほとんどないまま進めてしまいました。屋外の現場が多いため、天候によって十分な体験を提供できないまま終わってしまったという苦い経験があります。そのため、もし今回も何の支援もなく、いきなり実践型のインターンシップに挑戦していたら、かなりハードルが高かったと思います。

—橋本さんご自身は、プログラムの中でどのような役割を担われたのでしょうか

橋本 現場に「こういうことを知りたいようです」「こういう課題感を持っています」と共有したり、逆に現場の意見を学生さんに伝えたりと、橋渡し役のような立場でした。

インターンシップは、学生さんだけが頑張れば成り立つものでなく、現場の協力がないと進みません。ただ、現場も日々忙しいので、「なぜこれをやるのか」「何のために学生さんに見てもらおうのか」をきちんと伝えないと協力を得にくい部分があります。社内調整や情報共有は大事な役割です。大変さもありましたが、同時に会社として受け入れを考える良い機会にもなりました。



[図 在庫管理の現場ヒアリング(中央:インターン生)]

インターンシップで得られた成果

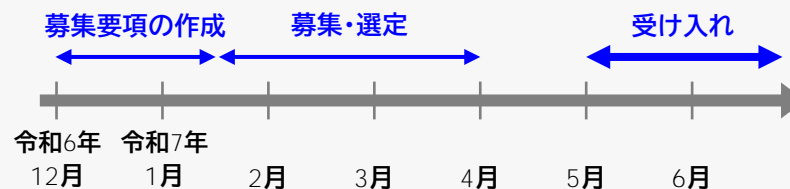
—実際に取り組んでみて、どのような成果がありましたか

橋本 まずは、汎用システムツールを活用した在庫管理システムを提案していただけたことです。在庫管理は以前から課題感があったものの、具体化できずにいました。そこに学生さんが入ってくれたことで、「現状はどうなっているのか」「何が不便なのか」「どんな仕組みにすれば改善できるのか」を整理しながら、具体的な提案まで持っていくことができました。

インターンシップ募集要項

- 募集対象** 人数:1名 年次:高専4~5年・高専専攻科1~2年、大学1~4年・大学院生
- 活動内容** 1:業務プロセスと課題の理解 ([目安]1週間)
2:業務改善、課題解決アイデアの検討及びブラッシュアップ ([目安]2週間)
3:業務改善、課題解決策の提案 ([目安]1週間)
- 活動期間** 令和7年2月以降に1か月程度
- 応募条件** 汎用的なPCスキルのある方、函館市内・近郊にお住まいで当社に通える方
- 活動条件** 週3日程度 (平日16:00~19:00の3時間を想定)

[インターンシップの実施スケジュール]



注 募集要項の記載は、令和7年5~6月に実施した内容です。現在は、上記の内容で募集していません。

1. 企業におけるインターンシップの実施意義

また、当初想定していたよりも進みが良かったため、追加の課題にも取り組んでもらいました。その中で作成していただいた従業員の旅費精算システムは、現在も実際に運用しています。単に「アイデアが出た」で終わるのでなく、会社の中で使える形になったことは、非常に大きな成果でした。

—社内の反応はいかがでしたか

橋本 建設業は身近でなく、どちらかというとなマイナーな印象を持たれやすい業界と思っています。だからこそ、学生さんが当社の仕事に関心を持ってくれたり、「こういう風にやっているんですね」と前向きに見てくれたことは、特に現場の職人たちにとって刺激になったように感じました。若い人に仕事を見てもらい、しかも一定の関心を持って受け止めてもらう機会は、普段多くありません。自分たちの仕事の意味や価値を改めて感じるきっかけにもなったと思いますし、社内のモチベーション向上にも繋がったと思います。

—学生さんご本人の反応は、どのように受け止めていますか

橋本 日報などのやり取りの中では、「実践的な業務に携われて非常に良い経験になった」という反応をいただきました。ほぼ初めての本格的な受け入れでしたので、「本当に満足して帰っていただけなのか」「十分な学びを提供できたのか」という不安は正直最後までありました。ただ一方で、実際に今も業務で使っている仕組みづくりに関わってもらえたことを考えると、ただ見学して終わるのではなく、「自分の提案や取組が会社の中に残った」という成功体験になったのではないかと考えています。受け入れる側として不安がゼロになることはなかなかないと思いますが、それでも形に残る成果があったことは、学生さんにとっても、会社にとっても良かったと感じています。

読み手へのメッセージ

—今回のインターンシップは、今後の採用や社内体制の強化という点で、どのような意味があったと感じていますか

橋本 採用だけを目的にしたものではありませんでした。むしろ、社内の課題解決や業務改善の側面が大きかったです。実際に学生さんを受け入れてみると、最近の学生がどのような視点で企業を見るのか、どのような関わり方に価値を感じるのかを直接知ることができました。これは、今後の採用戦略を考えるうえで非常に大きかったです。それまでの当社は、学生との接点が少なく、新卒採用についてもどこか距離のあるものとして見ていた部分がありました。しかし、実際に一緒に取り組む中、学生さんの考え方や反応に触れられたことで具体的なヒントが得られました。今回の受け入れは単発のプログラムでなく、採用のあり方を見直す入口になったと感じています。

—採用体制の強化という意味では、社内の受け入れ体制にも変化がありましたか

橋本 インターンシップに取り組む前は、「学生を受け入れる＝採用に直結させるもの」と捉えがちだったかもしれません。でも実際には、それだけではなく、会社として若手を受け入れる準備ができていくか、教育や指導の体制があるかを疑似的に試す機会にもなるのだと感じました。例えば、学生さんに何を見せるのか、誰がどう説明するのか、現場とどう連携するのか、といったことを考える中で、自社の受け入れ力や教育力が見えてきます。これは、新卒採用に限らず、今後若手社員を迎えるときにも繋がる視点だと思います。私自身も、現場との調整や学生さんとのやり取りを通じ、採用担当として単に募集をかけるだけではなく、「会社としてどう迎えるか」を考えるようになりました。

—これからインターンシップの実施を検討している企業に向けて、伝えたいことはありますか

橋本 以前は、インターンシップというと、採用活動の一環として「やった方がいいもの」「採用につながれば意味があるもの」というイメージが強かったです。今回取り組んでみて、必ずしも最初から採用成果を求めなくても良いと感じました。むしろ、自社の課題を見直したり、教育体制を考えたり、学生の感覚を知ったりするだけでも十分意味があります。インターンシップは「採るための施策」だけではなく、「会社を整えるための施策」でもあるのだと思います。今回の経験を通じて、その見方がかなり強くなりました。

当社も、採用担当が1人で、兼務のなかで進めることに不安はありましたし、過去にはうまくいかなかった経験もありました。それでも、実施することができました。まずは、自社にとって切実な課題や、学生に見てもらいたい仕事の一部をテーマにして小さく始めてみるのが良いと思います。その経験が、結果的には採用や組織づくりにも繋がると感じています。



企画部 橋本雪乃様 [写真右3人目]

道内企業事例 ② インターンシップ参加を契機に新卒採用に直結

●自動車部品の製造を行うトヨタ自動車北海道株式会社(本社:苫小牧市)では、優秀な学生と早期に接点を創出し、翌年度の採用に繋げること、採用ミスマッチを減らし、入社後の離脱を減らすことを目的に、大学3年生及び大学院の修士1年生8名を対象に、5日間の短期インターンシップに取り組んでいます。

インターンシップを実施した背景

—はじめにインターンシップを検討した背景を教えてください

佐藤・梅原 当社では、総務人事部人事室の要員管理グループが大卒・短卒・高卒の要員計画を管理しています。大卒採用では、以前に比べて応募者数が減少し、母集団形成が難しくなっていました。そうした中、技術系総合職の早期離職も発生しており、人事として大きな課題感を持っていました。

—離職や採用の課題については、どのような原因があると考えていたのでしょうか

佐藤・梅原 学生が抱く、「自動車部品メーカーの技術職」のイメージと、実際の業務内容にギャップがあることが課題だと考えていました。学生は車両開発のような仕事を想像しがちですが、当社の技術系総合職は、実際には製造ラインの改善など、現場に近い業務を担うことが多くあります。そこで、インターンシップを通じて実際の仕事を見てもらうことでミスマッチを減らせるのではないかと考えました。

実施したプログラム

—その中、なぜ5日間のインターンシップという形を選んだのでしょうか

佐藤・梅原 目的は2つありました。1つは、採用段階から技術系総合職のミスマッチを減らし、入社後の離脱を防ぐことです。もう1つは、優秀な学生と早期に接点を持ち、選考に進んでもらい、翌年度の採用に繋げることです。

令和6年夏(令和8年卒)からインターンシップを初めて実施しました。また、以前から実施していた1日間のオープン・カンパニーと目的に応じて使い分けることで、多種多様な学生のニーズに応えることが出来る体制を整えています。

オープン・カンパニーは、文系・理系を問わず大卒予定者を対象に、7月頃から翌年2月頃まで隔月1回の頻度で、例年4~5回程度開催しています。これに対し、インターンシップは、技術系総合職を対象としたプログラムで、理系の大卒予定者に絞って、学生の夏期休暇に合わせた8月下旬頃に実施しています。

—具体的なプログラムの流れを教えてください

佐藤・梅原 1日目は会社やプログラムの説明と、安全教育を行います。2日目以降、工場に立ち入りするため、必須の工程です。

2日目から4日目までは、学生に4つの中から希望する職場を事前に選んでもらい、実際の職場で体験してもらいます。例えば、3DCADにより設計した完成品のモデルを基に砂型を作成し、溶けたアルミニウムを型に流し込むことでオブジェを作成する手込め铸造体験の他、製造ラインの課題解決や工場内の省エネ策の検討など、実務に直結する体験を行うことが出来ます。

5日目には、自身で設定した課題に対する打ち手や、対策実行時に得ることが出来た効果を資料にまとめ、私たち要員管理グループの担当者や、現場の上長に対して成果報告を行っていただきます。その後、リクルーターとの座談会も実施しています。また、5日間は社員寮に宿泊してもらい、入社後に近い生活を体験してもらいます。

—実務体験では、どのようなテーマに取り組んでもらっているのでしょうか

佐藤・梅原 自動車製造工程における設備不具合を題材に、原因分析から改善策の検討、報告までを体験してもらいます。単なる見学でなく、入社後に近い流れの中で仕事を経験してもらうことを重視しています。

企業名 トヨタ自動車北海道株式会社
本社所在地 苫小牧市勇払145-1
事業内容 自動車部品の製造
設立年 平成3年
従業員数 3,448名

インターンシップ実施内容

受け入れ期間 5日間
募集方法 就職情報サイト上の記事掲載(公募)
活動内容 会社紹介・技術系総合職の職場体験・
リクルーターとの座談会
社内担当者 6名(採用担当1名、現場担当5名)

1. 企業におけるインターンシップの実施意義

全体の企画・運営は、私たち要員管理グループが担当しています。一方で、2～4日目に実施する職場体験内容は、受け入れする5部署で検討しています。実際の業務内容や現場の実情をよく知る各部門がプログラムを構築することが、より実態に即した受け入れに繋がると考えています。

インターンシップで得られた成果

—実際に5日間のインターンシップを導入したことで、どのような成果がありましたか

佐藤・梅原 令和6年の参加者7名から、入社予定者が出ています。令和7年は、参加者7名のうち6名が選考に応募しており、内々定を提示した学生も出ています。現在も複数名が選考中で、参加者の多くがその後の採用プロセスに繋がっています。

—採用に直結しなかったケースについては、どのように受け止めていますか

佐藤・梅原 当社としては、採用に繋がらなかったことを必ずしもマイナスには捉えていません。学生にとっても、実際の仕事を見たうえで「自分の希望とは違う」とわかることは意味がありますし、当社にとっても、入社後の早期離職を防ぐことに繋がるからです。

もちろん、参加した学生全員が入社に繋がるのが理想ではありますが、インターンの段階で相互理解が進むこと自体に価値があると考えています。

—採用以外の面でも手応えはありましたか

佐藤・梅原 インターンシップを通じて、採用選考の前段階から学生との接点を持てるようになったことは大きかったです。これまでは、限られた学生に会社を知ってもらい、その中から採用に繋げる、いわば「少数の応募に対して少数の内定を出す」ことになりがちでしたが、インターンを実施することで、より早い段階で会社や仕事を理解してもらえるようになったと感じています。

また、社員側も学生に対して自身の業務内容について説明を行う事で、より仕事に対して誇りを持つことが出来るようになったと感じております。

成果が得られた理由

—参加者が選考に進み、採用にも繋がったのは、どのような点が大きかったと考えていますか

佐藤・梅原 一番大きい要因は、実務に直結した内容を体験することだと思います。学生が、自動車部品メーカーに対して持っているイメージだけでなく、当社で実際にどのような仕事をするのかを、自分の目で見て、体験できるようにしています。その結果、仕事内容への理解や納得感を持ったうえで選考に進んでもらえているのだと思います。



【図 エアー漏れ対策 検討時の様子】

インターンシップ募集要項

募集対象 人数:8名 年次:大学3年・大学院修士1年

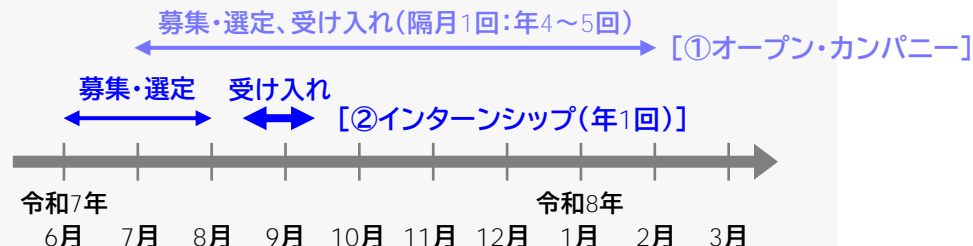
活動内容 1:会社・プログラムの紹介、安全教育 (1日間)
2:業務改善・課題解決策の検討・実行 (3日間)
3:業務改善・課題解決、リクルーター座談会 (1日間)

活動期間 令和7年8月下旬に5日間

応募条件 自動車部品メーカーの生産技術職に興味がある方

活動条件 週5日 (平日8:00～17:00)

【キャリア教育の実施スケジュール】



注 募集要項の記載は、令和7年度の実施内容です。令和8年度以降の実施内容は、異なる場合があります。

1. 企業におけるインターンシップの実施意義

—プログラム運営の面で工夫していることはありますか

佐藤・梅原 令和7年からは、インターンシップの前に会社の雰囲気を知ってもらえるよう、会社説明動画を制作してYouTubeで公開しました。令和6年は、参加前に会社のことを十分に伝える機会が少なかったため、その点を改善した形です。事前に会社理解を深めてもらうことで、参加後の納得感や志望度にも繋がっていると感じています。

—社員寮での宿泊も特徴的ですが、そこにはどのような狙いがあるのでしょうか

佐藤・梅原 仕事だけでなく、入社後の生活も含めてイメージしてもらうことが狙いです。苫小牧市での暮らしや、社員の生活に近い環境を体験してもらうことで、入社後のギャップを減らしたいと考えています。業務だけでは見えにくい会社の雰囲気や働く人の姿を知ってもらえるようにしています。

—募集や選抜の面で見直した点はありますか

佐藤・梅原 令和6年は初年度ということもあり、手探りの部分がありました。そこで令和7年は、令和6年の反省を踏まえて、より当社の採用ターゲットに近い学生に参加してもらえるよう、運営面も見直しました。数を集めることよりも、入社後の仕事を理解したうえで選考に進む可能性の高い学生と接点を持つことを重視しています。

読み手へのメッセージ

—実際にインターンシップを導入してみて、導入前と比べて認識が変わったことはありますか

佐藤・梅原 始める前は、インターンシップを導入しなければ採用活動の流れに乗り遅れてしまうのではないかと、という危機感もありました。実際に取り組んでみると、単なる流れへの対応ではなく、会社を知ってもらい、母集団を形成し、ミスマッチを減らすうえで非常に有効な施策だと実感しています。実際に、参加者の中から入社予定者や内々定者が出てきていることもあり、採用施策としての手応えを感じています。

—これからインターンシップの実施を検討している企業に向けて、伝えたいことはありますか

佐藤・梅原 インターンシップは、単に会社説明をする場ではなく、仕事のリアルを見せて相互理解を深める場として設計することが大切だと思います。採用に繋がることはもちろん重要ですが、学生が「自分には合わない」と判断できることも、企業と学生の双方にとって意味があります。

インターンシップ参加者から内定者が出ていることから、新卒採用の観点では実施機会を増やしていくことが望ましいと考えています。一方で、受け入れを担う現場部門にとっては、工場という特性上、学生に付きっきりで対応する場面も多く、負担は小さくありません。無理のない範囲で、現場と相談しながら進めていくことも大事です。

令和8年も、8月頃にインターンシップを1回実施する予定です。当社としても、今後さらにカイゼンを重ねながら、継続して取り組んでいきたいと考えています。



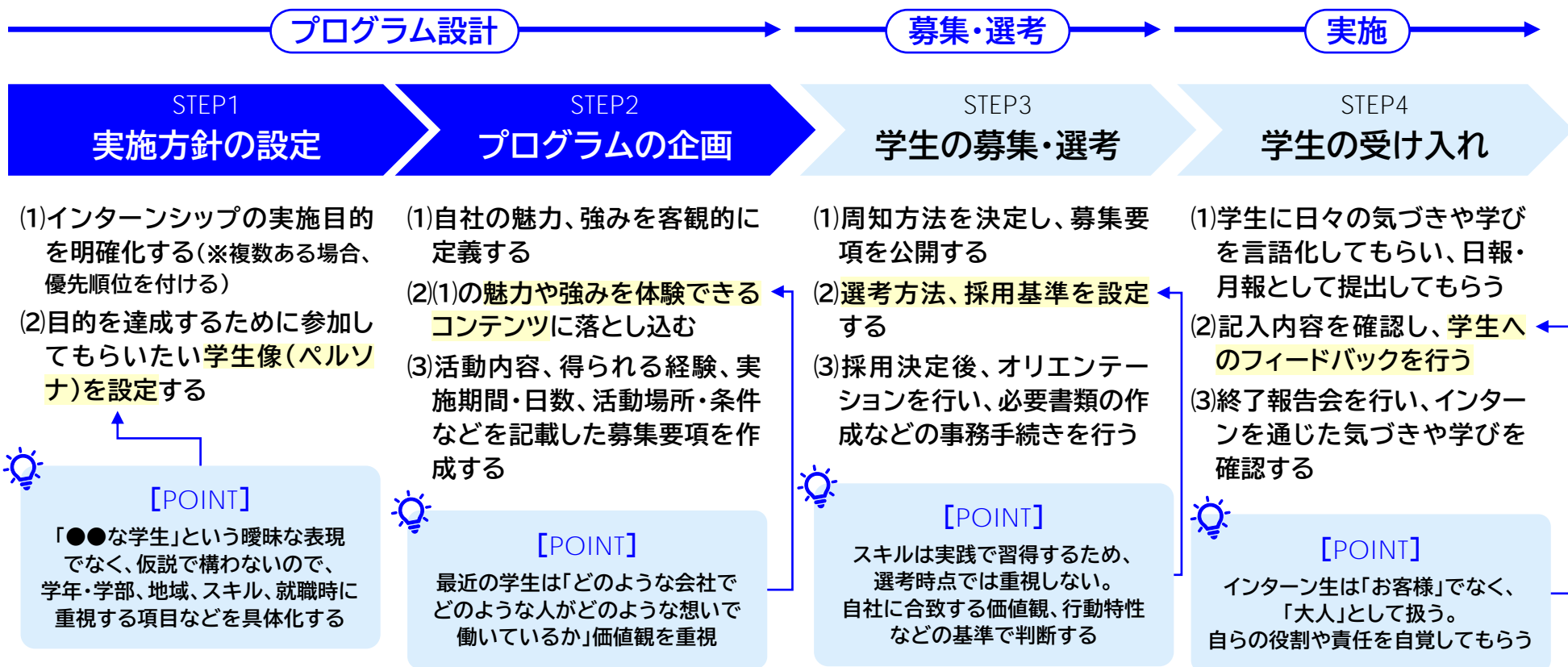
総務人事部 人事室 要員管理グループ

GM 佐藤憲政 様 [写真右]

担当 梅原慶介 様 [写真左]

インターンシップの導入プロセスとポイント

- インターンシップの導入プロセスは、①プログラム設計、②募集・選考、③実施の3段階に分けられます。多くの学生は、応募時にプログラム内容を重視するため、プログラム設計に特に時間をかけることが大切です。
- 経済産業省では、学生の受け入れ時のポイントや、そのまま活用できる必要書類などを記載したガイドブックを作成・公表しています(出典)。



プログラム設計 コンテンツの類型と特徴

●インターンシップのコンテンツは、大きく4つに分けられます。学生のニーズを踏まえたプログラム設計が重要です。

[表 インターンシップのコンテンツ別の特徴]

コンテンツ	概要	特徴	こんな企業におすすめ!
業務体験・現場受け入れ型	社員が日常的に行っている業務の全部または一部を学生に体験してもらう	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際の業務をベースにするため、企画しやすい ○ 実施期間を柔軟に調整しやすい ○ 企業規模・業種を問わず導入しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 受け入れ時の現場負担を最小限にしたい企業 ➔ 学生の業務適性、向き合い方などを評価したい企業
事業企画・提案型	企業の経営課題やテーマを基に、学生がチームを組み企画・提案を行う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題・テーマの設定から提案までプロジェクト型で進行する ▲ 2日以上での実施が前提 ▲ 企業・学生にとって実施難易度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 業務適性に限らず、学生の思考力や企画力、コミュニケーション力などを評価したい企業 ➔ 社内に担当者が多く、実施経験も豊富な企業
自己分析・キャリアデザイン型	学生が自身の強み、価値観を整理し、社員がフィードバックを行う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就職活動初期の学生を対象にできる ○ 企業の知名度に左右されにくい ○ 比較的企画しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 自社の業界を志望する学生に限らず、幅広い学生と接点を創出したい企業
フィールドワーク型	学生が社外に出て調査・体験を行い、結果を整理して発表する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動的な学生が参加しやすい ▲ 1～2日間の短期プログラムが前提 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 学生の行動力などを評価したい企業 ➔ 実店舗や施設など、実習フィールドを保有する企業



[POINT] 次の3点を意識してコンテンツを選択しよう!!

項目 ① 対象年次 ➔ 採用を目的とする場合は・・・就活生を対象に(例:大学3年生、修士1年生など)
社内の体制強化を目的とする場合は・・・就活生以外の年次も広く対象に

項目 ② 体制・担当者数 ➔ 経営層の理解を得て、採用担当だけでなく、現場担当とも協力関係を構築する

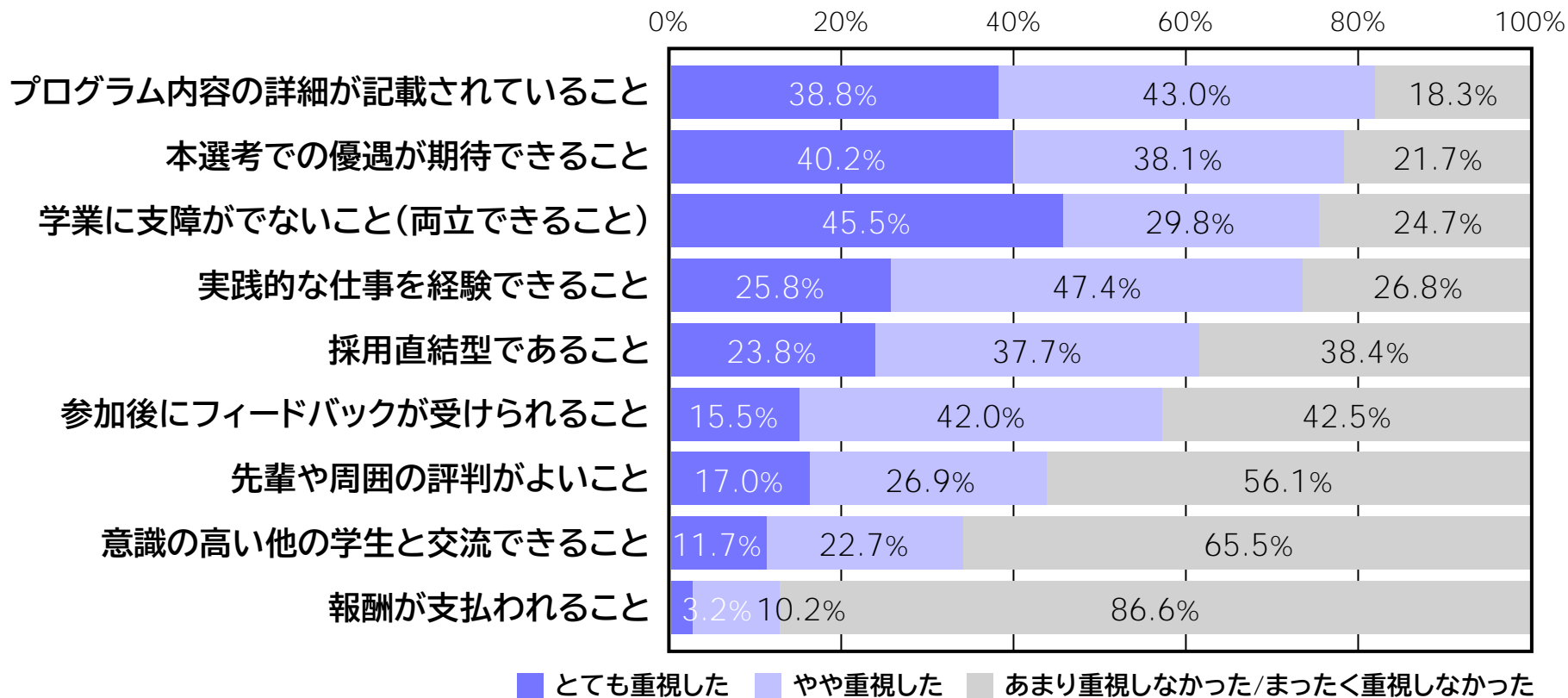
項目 ③ 期間・日数 ➔ 長くなるほど現場負担は大きくなるが、学生との関係性は深くなる



学生がインターンシップ参加企業を探す際に重視したこと

- インターンシップ参加企業を探す際には、学生の8割以上が「プログラム内容の詳細が記載されていること」を重視しています。他のプログラムとの差別化要素を明確に示すことが大切です。
- 「意識の高い他の学生と交流できること」や「報酬が支払われること^(注)」を重視する学生は3割未満であり、応募時に重視する項目の中では、比較的少なくなっています。

【インターンシップ参加企業を探す/申し込む際に重視したこと^(出典)】



出典 株式会社キャリアタス「インターンシップ等に関する特別調査(令和6年4月)」

注 交通費・宿泊費などを除く報酬の支給を不可とするインターンシップもあります。詳しくは、各大学・高専のホームページでご確認ください。

募集・選考

インターンシップの募集方法

●地域企業では広報活動を行うための人材や資金などのリソースが限られており、インターン募集時の課題となっています。募集方法は、大きく4つに分けられますが、社内の状況に適した方法を選択することが大切です。

[表 インターンシップの募集方法別の特徴]

募集方法	主な内容	特徴	こんな企業におすすめ!
学校連携型	<ul style="list-style-type: none"> 学校主催のイベント参加 就職支援部門、キャリアセンターなどの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の公募・推薦により信頼性が高い ○ 学校、学生と継続関係を構築できる ▲ 学校との調整に手間と工数がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 学生と接点が少なく認知度が低い企業 ➔ 中長期的に学校、学生と関係を築きたい企業
企業主導型	<ul style="list-style-type: none"> 会社説明会の主催 チラシの配布・掲示 SNS発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組の自由度が高く、自社の特色を全面的に打ち出すことができる ▲ 学生が集まりにくい ▲ 集客に手間と工数がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ すでに一定の認知度がある大手企業
就職情報サイト連携型	<ul style="list-style-type: none"> ナビサイトの掲載 スカウト型サービスの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 短期間で母集団を形成できる ○ 全国の学生にアプローチできる ▲ 費用がかかる ▲ 知名度の高い大手企業と競争になる 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ すでに一定の認知度がある大手企業 ➔ 効率的に集客し、短期間で母集団を形成したい企業
コーディネート機関連携型	<ul style="list-style-type: none"> 地域のコーディネート機関の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画～集客まで任せられる ▲ 地域に機関が存在しない場合がある ▲ 実施期間が定められている場合が多く、取組の自由度が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ➔ 社内にノウハウがなく、まずはサポートを受けながら試行したい企業



[POINT] 地域企業こそ「学校連携型」を有効活用して、弱点を克服!!

- 弱点① 知名度が低い ➔ 学校の公募・推薦を通じて間接的に信用を獲得／少人数だが質の高い学生を獲得
- 弱点② 広告予算が限られている ➔ 授業やイベントなど、学生が集まる場所に直接アプローチ
- 弱点③ 人事専任がない ➔ 学校と連携することで効率的に募集



大学・高専におけるインターンシップの類型と特徴

●本ガイドブックでは、大学・高専の正規授業科目として単位認定の対象となる取組を「単位認定型インターンシップ^(注)」、単位認定に限らず幅広い条件で実施する取組を「企業公募型インターンシップ^(注)」と記載しています。

[表 単位認定型インターンシップと企業公募型インターンシップの特徴]

実施区分	実施目的	単位認定	募集方法	募集期間	実施期間	成果物	報酬	おすすめ
単位認定型	学習・育成を目的に正規授業科目扱い	可能	学校経由(学内募集・推薦など)	決まっている場合が多い	最低基準がある [例]実働5日かつ30時間以上	受入企業から評定書・修了証などの提出が必要	交通費などの実費相当分を除き、原則無給	学校と継続的に関係を築きながら、質の高い学生と出会いたい企業
企業公募型	採用PR、職業体験を目的にした課外活動の一環であり、任意参加扱い	原則不可	実施企業が自由募集(学生が直接応募)	通年募集の場合が多い	数時間、1日から可能	提出不要な場合が多い	有給・無給のいずれも可	短期間で多くの学生と接点を創出し、広く認知を高めたい企業



[POINT] 実施したい内容に応じてインターンシップを使い分けよう!!

単位認定型インターンシップでは、学校から公募・推薦などが得られる一方、実施期間や時間数が厳密に定められたり、受入企業から書類提出が必要などの条件が設定されることが一般的です。

実施イメージ

- 単位認定型 → 専門性を活かした実務体験、企業・地域課題の解決など、中長期間のプログラム
- 企業公募型 → 1DAY仕事体験、オープン・カンパニーなど、短期間のプログラム



注 本ガイドブックにおける便宜的な記載であり、実際の取組の呼び方は各大学・高専によって異なります。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

[表 北海道デジタル人材育成推進協議会の参画機関におけるインターンシップの実施状況^(注1)]

学校名	区分	学部	「単位認定型」	「企業公募型」
北海道大学	国立大学	文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部、獣医学部、水産学部	▲ ^(注2)	●
室蘭工業大学	国立大学	理工学部	●	●
小樽商科大学	国立大学	商学部	●	●
帯広畜産大学	国立大学	畜産学部	●	●
旭川医科大学	国立大学	医学部	—	—
北見工業大学	国立大学	工学部	●	●
公立はこだて未来大学	公立大学	システム情報学部	●	●
公立千歳科学技術大学	公立大学	理工学部	▲ ^(注2)	●
札幌市立大学	公立大学	デザイン学部、看護学部	▲ ^(注2)	●
旭川市立大学	公立大学	経済学部、保健福祉学部、地域創造学部	—	●
札幌大学	私立大学	地域共創学群	—	●
札幌学院大学	私立大学	人文学部、法学部、心理学部、経済経営学部	—	●
北海学園大学	私立大学	経済学部、経営学部、法学部、人文学部、工学部	▲ ^(注3)	●
北海道科学大学	私立大学	工学部、情報科学部、薬学部、保健医療学部、未来デザイン学部	▲ ^(注3)	●
北海道情報大学	私立大学	統合情報学部、医療情報学部、情報メディア学部	●	●
北星学園大学	私立大学	文学部、経済学部、社会福祉学部、国際学部	—	●
北海道医療大学	私立大学	薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部、医療技術学部、臨床データサイエンス学環(※令和8年4月開設)	—	●
函館工業高等専門学校	高等専門学校	生産システム工学科、物質環境工学科、社会基盤工学科	●	●
苫小牧工業高等専門学校	高等専門学校	創造工学科	●	●
釧路工業高等専門学校	高等専門学校	創造工学科	●	●
旭川工業高等専門学校	高等専門学校	機械システム工学科、電気情報工学科、システム制御情報工学科、物質化学工学科(本科)	●	●

注1 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

注2 大学・高専と特定企業との連携で実施しているため、新規の企業募集は行っていません。

注3 学生が各自で単位認定申請を行うため、企業側で単位認定の有無を選択することはできません。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

北海道大学 (所在地:札幌市)

学部一覧	文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部、獣医学部、水産学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] 「インターンシップNAVI」への登録 ▶インターンシップNAVIへの掲載方法は、北海道大学キャリアセンターホームページにてご案内しています。
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込方法] 大学からの依頼により実施するため、受入企業からの申し込みは受け付けていません。
担当窓口	[部署名] キャリアセンター [電話番号] 011-706-2140 [メールアドレス] ccsup1[at]academic.hokudai.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

室蘭工業大学 (所在地: 室蘭市)

学部一覧	理工学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] キャリタスUC「求人票、インターンシップ&キャリア情報配信サービス」の登録
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] キャリタスUC「求人票、インターンシップ&キャリア情報配信サービス」の登録 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>💡 室蘭工業大学の主な単位認定条件はこちら!</p><ul style="list-style-type: none">▶ 実施期間 夏期休業期間・春期休業期間中に5日以上▶ 成果物 受入企業からの「評定書」提出▶ 報酬 制限なし</div>
担当窓口	[部署名] キャリア・サポート・センター [電話番号] 0143-46-5122 ※原則、メールでお問い合わせください。 [メールアドレス] csc[at]muroran-it.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

小樽商科大学 (所在地:小樽市)


学部一覧	商学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] 以下いずれかの方法でお申し込みください。 ①メールまたは郵送にてチラシなどの資料送付 ②キャリアタスUC「求人票、インターンシップ&キャリア情報配信サービス」の登録
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] 担当窓口へ電話またはメールにて「受入調査票送付を希望する」旨をご連絡ください。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"><p>☀ 小樽商科大学の主な単位認定条件はこちら!</p><ul style="list-style-type: none">▶ 実施期間 実習時間の合計が60時間以上▶ 成果物 受入企業からの「修了証明書」及び「評価票」提出▶ 報酬 無給▶ その他 学生1名以上の受け入れ枠を設けること</div>
担当窓口	[部署名] キャリア支援センター [電話番号] 0134-27-5250/5249 [メールアドレス] shushoku[at]office.otaru-uc.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

帯広畜産大学 (所在地:帯広市)

学部一覧	畜産学部
企業公募型 インターンシップ	<p>[制 度] あり</p> <p>[申込期間] 通年募集</p> <p>[申込方法] 以下いずれかの方法でお申し込みください。</p> <ul style="list-style-type: none">①メールにてチラシなどの資料送付②キャリアタスUC「求人票、インターンシップ&キャリア情報配信サービス」の登録
単位認定型 インターンシップ	<p>[制 度] あり</p> <p>[申込期間] 例年4月下旬まで</p> <p>[申込方法] 担当窓口にてメールにてご相談ください。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"><p>☀ 帯広畜産大学の主な単位認定条件はこちら!</p><ul style="list-style-type: none">▶ 実施期間 夏季休業期間を中心に、原則1日8時間以上かつ最低5日以上▶ 成果物 学生が持参する「実習日誌」への記入▶ 報酬 原則無給</div>
担当窓口	<p>[部署名] 学生支援課 就職支援係</p> <p>[電話番号] 0155-49-5280/5303</p> <p>[メールアドレス] syusyoku[at]obihiro.ac.jp</p> <p>※メール送信時は、[at]を@に変更してください。</p> <div style="text-align: right;"></div>

注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

北見工業大学 (所在地:北見市)

学部一覧	工学部
企業公募型 インターンシップ	<p>[制 度] あり</p> <p>[申込期間] ①例年4月上旬～下旬まで ②通年</p> <p>[申込方法] 以下いずれかの方法でお申し込みください。</p> <p>①北見工業大学「北見工業大学インターンシップ申込システム」の登録</p> <p>②メールまたは郵送にてチラシなどの資料送付</p>
単位認定型 インターンシップ	<p>[制 度] あり</p> <p>[申込期間] 上記「企業公募型インターンシップ」と同様</p> <p>[申込方法] 上記「企業公募型インターンシップ」と同様</p>
<p>☀ 北見工業大学の主な単位認定条件はこちら!</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実施期間 夏期休業期間に、連続した1週間以上(概ね40時間以上) ▶ 提出物 大学から依頼する関係書類 ▶ 報酬 原則無給 ※交通費・食費・宿泊費などを除く <p>※詳細は大学ホームページからご確認ください。</p>	
担当窓口	<p>[部署名] 学生支援課 キャリア支援係</p> <p>[電話番号] 0157-26-9184</p> <p>[メールアドレス] gakusei02[at]desk.kitami-it.ac.jp</p> <p>※メール送信時は、[at]を@に変更してください。</p>



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

公立はこだて未来大学 (所在地:函館市)

学部一覧	システム情報学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] メールにてチラシなどの資料送付
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 例年4月頃 [申込方法] キャリタスCMS「公立はこだて未来大学 大学経由インターンシップ」の登録 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"><p>🔗 はこだて未来大学の主な単位認定条件はこちら!</p><ul style="list-style-type: none">▶ 実施期間 本学夏季休暇期間に、5日以上(可能であれば10日以上)▶ 成果物 受入企業による「企業実施参加報告書・日報」の確認、「インターンシップ評価票」提出▶ 報酬 「就業体験」を目的とするもので、対価を前提とする労働(アルバイト等)ではないこと▶ その他 参加者の選考を実施しないこと/システム情報科学に関連した実施内容を含むこと</div>
担当窓口	[部署名] 入試・広報・就職課 就職担当 [電話番号] 0138-34-6471 ※原則、メールでお問い合わせください。 [メールアドレス] career[at]fun.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

公立千歳科学技術大学 (所在地:千歳市)





学部一覧	理工学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] キャリタスUC「求人票、インターンシップ&キャリア情報配信サービス」より配信
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込方法] 単位認定型インターンシップの受け入れは公募していません。
担当窓口	[部署名] キャリア支援課 [電話番号] 0123-27-6136 [メールアドレス] employ[at]photon.chitose.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

札幌市立大学 (所在地:札幌市)

学部一覧	デザイン学部、看護学部	
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] メールにてチラシなどの資料送付	
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込方法] 受入企業からの申し込みは受け付けていません。	
担当窓口	 デザイン 学 部 【企業公募型及び単位認定型インターンシップ】 [部署名] デザイン学部キャリア支援室 [電話番号] 011-592-2371 [メールアドレス] csc[at]scu.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。	
	 看 護 学 部 【企業公募型インターンシップ】 [部署名] 看護学部キャリア支援相談室 [電話番号] 011-726-2500 [メールアドレス] so.career[at]scu.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。 【単位認定型インターンシップ】 [部署名] 桑園事務室教務係 [電話番号] 011-726-2500 [メールアドレス] so.kyomu[at]scu.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。	

注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

旭川市立大学 (所在地:旭川市)

学部一覧	経済学部、保健福祉学部、地域創造学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] メールにてチラシなどの資料送付
単位認定型 インターンシップ	[制 度] なし
担当窓口	[部署名] キャリア支援課 [電話番号] 0166-48-3121 [メールアドレス] au-syu-d[at]live.asahikawa-u.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

札幌大学 (所在地:札幌市)

学部一覧	地域共創学群
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] メールにてチラシなどの資料送付
単位認定型 インターンシップ	[制 度] なし
担当窓口	[部署名] 就職課 インターンシップ等担当 [電話番号] 011-852-9143 [メールアドレス] intern-s[at]ofc.sapporo-u.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法



札幌学院大学 (所在地:江別市・札幌市)

学部一覧	人文学部、法学部、心理学部、経済経営学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] メールにてチラシ送付 ※大学側指定の様式(A4版1枚)となります。
単位認定型 インターンシップ	[制 度] なし
担当窓口	[部署名] キャリア支援課 [電話番号] 011-375-8101(江別キャンパス) 011-802-8625(新札幌キャンパス) [メールアドレス] syusyoku[at]ims.sgu.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。


北海学園大学 (所在地:札幌市)

学部一覧	経済学部、経営学部、法学部、人文学部、工学部
企業公募型 インターンシップ	<p>[制 度] あり</p> <p>[申込期間] 通年募集</p> <p>[申込方法] メールにてチラシなどの資料、または募集要項を記載したページのリンク送付</p>
単位認定型 インターンシップ	<p>[制 度] あり(経営学部を除く)</p> <p>[申込期間] 例年10月上旬～翌年1月上旬まで</p> <p>[申込方法] 上記「企業公募型インターンシップ」と同様</p> <p>▶ 単位認定型インターンシップは、学生が各自で単位申請を行う形式となっています。受入企業側で選択できないため、実施にあたりあらかじめご理解ください。</p> <p>▶ 単位認定に関する手続き・可否は、企業から学生を通じて、所属学部へ個別にご確認ください。(キャリア支援センターでは対応しておりません)</p>
<p>☀ 北海学園大学(経済学部)の主な単位認定条件はこちら!</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実施期間 5日以上かつ60時間以上(期間の半分以上が就業体験) ▶ 成果物 受入企業からの「インターンシップ受入企業評価票」等の提出 ▶ その他 3年生以上を対象に実施すること <p>※上記は、経済学部の例です。学部により認定条件が異なります。 詳しくは、右記の2次元コードにアクセスいただき、各学部のホームページをご覧ください。</p> 	
担当窓口	<p>[部署名] キャリア支援センター</p> <p>[電話番号] 011-841-1161(代表)</p> <p>[メールアドレス] syusyoku[at]hgu.jp</p> <p>※メール送信時は、[at]を@に変更してください。</p> 

注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法


北海道科学大学 (所在地:札幌市)

学部一覧	工学部、情報科学部、薬学部、保健医療学部、未来デザイン学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] キャリタスUC「求人票、インターンシップ&キャリア情報配信サービス」の登録
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] 上記「企業公募型インターンシップ」と同様 ▶ 単位認定型インターンシップは、学生が各自で単位申請を行う形式となっています。 受入企業側で選択できないため、実施にあたりあらかじめご理解ください。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"><p>☀ 北海道科学大学の主な単位認定条件はこちら!</p><ul style="list-style-type: none">▶ 実施期間 夏期・春期休業期間または休日中に、5日以上かつ通算40時間以上▶ 成果物 「日誌(指導責任者の記載項目あり)」等の提出▶ 報酬 原則無給▶ その他 1年次前期～4年次前期を対象に実施すること</div>
担当窓口	[部署名] キャリア支援課 [電話番号] 011-688-2384 [メールアドレス] syusyoku[at]hus.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。 

注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

北海道情報大学 (所在地:江別市)

学部一覧	総合情報学部、医療情報学部、情報メディア学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] メールまたは郵送にてチラシなどの資料送付
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 例年5月中旬まで [申込方法] 原則、大学と協定を締結する必要があります。担当窓口にてメールにてご相談ください。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"><p> 北海道情報大学の主な単位認定条件はこちら!</p><ul style="list-style-type: none">▶ 実施期間 主に夏期休業期間中に、実働5日以上(約40時間以上)▶ 成果物 受入企業からの「日誌」及び「評価表」提出▶ 報酬 原則無給▶ その他 3年生を対象に実施すること</div>
担当窓口	[部署名] 学生サポートセンター事務室 就職課 [電話番号] 011-385-4416 [メールアドレス] syusyoku[at]do-johodai.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

北星学園大学 (所在地:札幌市)

学部一覧	文学部、経済学部、社会福祉学部、国際学部
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] メールにてチラシなどの資料、または募集要項を記載したページのリンク送付
単位認定型 インターンシップ	[制 度] なし
担当窓口	[部署名] キャリアデザインセンター(就職支援課) [電話番号] 011-894-3771(直通) [メールアドレス] shushoku[at]hokusei.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

北海道医療大学 (所在地:当別町)

学部一覧	薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部、医療技術学部、臨床データサイエンス学環(※令和8年4月開設)
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] メールまたは郵送にてチラシなどの資料送付 ※様式指定(チラシの場合はA4版縦長1枚、データの場合はPDF形式でA4版縦長1枚)となります。
単位認定型 インターンシップ	[制 度] なし
担当窓口	[部署名] 学生支援課(就職担当) [電話番号] 0133-23-1102 [メールアドレス] job[at]hoku-iryu-u.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

函館工業高等専門学校 (所在地: 函館市)

学部一覧	生産システム工学科、物質環境工学科、社会基盤工学科
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] 「高専キャリアサポートシステム」の登録
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込方法] 以下いずれかの方法でお申し込みください。 ①「高専キャリアサポートシステム」の登録 ②メールまたは郵送にてチラシなどの資料送付
担当窓口	[部署名] キャリアセンター [電話番号] 0138-59-6305 [メールアドレス] careerc[at]hakodate-ct.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

苫小牧工業高等専門学校 (所在地: 苫小牧市)


学部一覧	創造工学科
企業公募型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] キャリタスUC「求人票、インターンシップ&キャリア情報配信サービス」の登録
単位認定型 インターンシップ	[制 度] あり [申込期間] 例年6月頃まで [申込方法] メールにて担当窓口にて「学外実習受入調査票」を提出してください。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"><p>🔦 苫小牧工業高等専門学校の主な単位認定条件はこちら!</p><ul style="list-style-type: none">▶ 実施期間 原則夏季休業期間中に、実働5日かつ30時間以上 ※本科生の場合▶ 成果物 受入企業からの「評定書」提出▶ 報酬 無給▶ その他 本科第4学年及び専攻科1年生を対象に実施すること</div>
担当窓口	[部署名] 学生課 教務係 [電話番号] 0144-67-8001 [メールアドレス] kyomu[at]tomakomai-ct.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。



注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。


3. 道内大学・高専におけるインターンシップ関連窓口・登録方法

釧路工業高等専門学校 (所在地: 釧路市)

学部一覧	創造工学科
企業公募型 インターンシップ	<p>[制 度] あり</p> <p>[申込期間] 通年募集</p> <p>[申込方法] 以下いずれかの方法でお申し込みください。</p> <ul style="list-style-type: none">①メールまたは郵送にてチラシなどの資料送付②「高専キャリアサポートシステム」の登録
単位認定型 インターンシップ	<p>[制 度] あり</p> <p>[申込期間] 例年6月頃まで</p> <p>[申込方法] 上記「企業公募型インターンシップ」と同様</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"><p>☀ 釧路工業高等専門学校の主な単位認定条件はこちら!</p><ul style="list-style-type: none">▶ 実施期間 原則夏期休業期間中に、実働5日かつ30時間以上 ※本科生の場合▶ 成果物 受入企業からの「学外実習証明書」提出 ※本科生の場合▶ 報酬 無給▶ その他 原則本科第4学年及び専攻科1年生を対象に実施すること、 ただし、特別な事情がある場合は専攻科2年生を対象にすることも可能</div>
担当窓口	<p>[部署名] 学生課 学生支援係</p> <p>[電話番号] 0154-57-7224</p> <p>[メールアドレス] gakuseig[at]kushiro-ct.ac.jp</p> <p>※メール送信時は、[at]を@に変更してください。</p> 

注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。

旭川工業高等専門学校 (所在地:旭川市)

<p>学部一覧</p>	<p>本 科： 機械システム工学科、電気情報工学科、システム制御情報工学科、物質化学工学科 専攻科： 生産システム工学専攻、応用科学専攻</p>
<p>企業公募型 インターンシップ</p>	<p>[制 度] あり [申込期間] 通年募集 [申込方法] 以下いずれかの方法でお申し込みください。 ①メールにてチラシなどの資料(様式任意)送付 ②メールにて「インターンシップ受入票(様式指定)」送付</p>
<p>単位認定型 インターンシップ</p>	<p>[制 度] あり [申込期間] 例年3月頃まで(ただし、その後も受付可) [申込方法] 上記「企業公募型インターンシップ」と同様</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☀ 旭川工業高等専門学校の主な単位認定条件はこちら!</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実施期間 原則夏期休業期間中に 本科生の場合： 受入れ機関(1機関)において実働5日以上 専攻科生の場合： 受入れ機関(1機関または複数機関の合計で)実働3～4週間以上 ▶ 成果物 受入企業からの「インターンシップ証明書(評価書)」提出 ▶ 報酬 無給 ▶ その他 原則本科第4学年及び専攻科を対象に実施すること </div>
<p>担当窓口</p>	<p>[部署名] 学生課 教務係 [電話番号] 0166-55-8156 [メールアドレス] g_kyomu[at]asahikawa-nct.ac.jp ※メール送信時は、[at]を@に変更してください。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

注 記載内容は令和8年3月時点となります。最新の情報は、各校のホームページでご確認ください。